



保健室の先生が担う役割と連携したサポートの重要性

尾倉中 田中愛理先生、皿倉小 鳥田 野乃先生が保健室の先生です。保健室の先生(養護教諭)が働く場所は、当たり前ですが、「保健室」です。そして、たいいていの学校には「保健室」があるので、保健室の先生(養護教諭)は、他の教科の教諭と違って、幼稚園から大学まで、あらゆる校種で働くことができます。

小学校や中学校では当然の存在として認識されている保健室の先生(養護教諭)。けがや病気の際に治療してくれる優しい先生と多くの子どもたちは思っています。



尾倉中・皿倉小は、小中一貫・連携教育モデル校としての取組を進めていますが、それは授業や学校行事だけの連携ではありません。保健室の連携も大切な取組だと考えています。6年生の児童が尾倉中に進学したときに、話をしたことがある田中先生が保健室にいたらどうでしょうか。安心できる空間になるのではないかと考えます。同様に、時々鳥田先生が尾倉中に来校し、生徒と関わってくれたら生徒はどう思うのでしょうか。嬉しいに違いありません。

繰り返しになりますが、小中一貫・連携教育は全教育活動で目指すべきものであり、それが、児童生徒の健やかな成長につながると思います。

今後は、情報発信の一つとして、尾倉中・皿倉小の「保健だより」も両校に掲示する予定です。